

卒業生答辞

厳しい冬の寒さも次第に和らぎ、暖かな春の訪れを感じる季節となりました。本日は私達卒業生の為に厳粛かつ壮麗な式を挙げて頂き、誠に有難う御座います。真板 竜太郎校長先生をはじめ、皆様から心温まる御祝辞や激励の言葉を頂き、卒業生一同感謝の気持ちでいっぱい御座います。

三年前の四月、我々は真新しい制服に身を包み、当時の生徒会長、吉田 凧沙会長をはじめとする多くの先輩方、並びに教職員の皆様から暖かく迎え入れて頂きました。当時は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっていた為、高校生活でも多くの制限があり、楽しむことは出来ないのではないか等私達は、多くの不安に駆られていました。そしてこれから始まる学校生活への不安と期待を胸に、ここにいる仲間達と歩み始めたのを鮮明に覚えております。

我々の高校生活は前半と後半でまったく違う生活でした。高校一、二年生までは新型コロナウイルス感染症の影響で様々な制約があり、思うように活動することが出来ない状況が続きました。しかし三年生になると制約のほとんどが解除され、いつもの日常が戻って来ました。人生でたった三年しかない高校生活。前半の制限があった高校生活では、自らが出来る最大限の努力をし、楽しむことを学びました。後半では、五年ぶりの通常の学校生活が戻ってきて、安心や単なる楽しさだけではなく、「いつも通りの日常生活のありがたさ」を極めて痛感することが出来ました。

我々が一番印象に残った行事は、やはり真心祭です。体育の部では、各色お互いに切磋琢磨し合い、練習も本番も全てにおいて、全力で行事に勤しみました。私が所属していた桃組では、史上初となる生徒主導の体育祭を行いました。私や、団長・副団長をはじめとする計十九名の体育祭実行委員のもと練習に励みました。完全に生徒のみで練習メニューや必勝法を考案し、桃組の皆さんを動かし、時には教員の方々への協力指示まで行いました。そして桃組全員を体育祭本番まで導きました。結果は三位と惜しい結果となりましたが、学年を超えて、桃組の皆様と一つの事に熱中できたのは良い思い出であり、協力して頂いた皆様は本当に私の誇りです。

文化の部では、コロナが流行してから初の一般公開を行い、校内は非常に大きな盛り上がりを見せていました。野外ステージでは今までよりも多くの部活動や同好会が出場し、そして初めて生徒会本部も出場を果たしました。どの団体も普段の学校生活ではあまり目にすることが出来ない姿を見て、非常に感動したのを覚えています。又、今年度は初のバザーを行いました。各ご家庭の皆様、校外の企業がバザー一品を提供して下さい、バザーを行った至誠館は大変賑わっておりました。こうして文化祭が大成功に終わったのは全校の皆様や教職員だけではなく各ご家庭やPTAの皆様、地域の方々等、多方面からの御支援や御協力があったおかげだと思います。感謝申し上げます。

コロナ禍の激動の時代で、我々がこのように有意義な学校生活を送ることが出来たのは、教職員の方々が生徒一人一人に真剣に向き合い、個性を伸ばしてくれたからだと思います。特に進路関係では非常に親身に相談してくださいました。面接練習や志望校選定の相談等快く付き合ってください、的確なアドバイスを頂く中で、我々は自らの進路を自分の意志で決定することが出来ました。本当に三年間有難う御座いました。

そして、保護者の方々に対しても感謝の気持ちを忘れてはなりません。一生懸命ここまで育ててくれた保護者の方々があります。約三年間、ほとんど毎日お弁当を作って頂き、玄関で「行ってらっしゃい」と暖かく見送ってくれました。高校というのは義務教育ではありません。三年間この木更津総合高等学校で高校生活を送らせて頂いた事に非常に感謝しております。そして今日、無事に卒業できたことは我々を支えて下さった家族のお陰です。我々はこれから自立し、いつか巣立つときが来ると思いますが、親孝行できる日が来るまで見守っていて下さい。

在校生の皆様。先ほどは心のこもった御祝辞を有難う御座いました。皆様には行事や委員会等多くの場面で支えてくれました。先輩である我々が学びを得ることも多くありました。四月から皆様は新入生を迎え入れ、新たな一步を踏み出さなければなりません。この木更津総合高等学校の伝統を受け継ぎ、それぞれの目標に向かって、必死に突き進んでください。皆様なら必ず目標は達成できるはずです。又、高校生活も残り少なく、卒業の時はあっという間に来てしまいます。悔いの残らないように諦めずに全力で物事に取り組んでください。

そして一緒に三年間をともに過ごした卒業生の皆様。本当に三年間有難う御座いました。私が第十八代生徒会副会長、第十九代生徒会会長に就任し全校のリーダーとして物事を進めることが出来たのは、やはり同学年である三年生の支えがあったからです。選挙の時の一票はもちろんの事、当選後もキャップ回収活動など多くの事に協力していただきました。皆様がいなければ、私はこうして前に出て、話すことも出来なければ、生徒会長として公約を果たすことは不可能に近かったはずです。皆様には感謝しかありません。在校生も同様ですが、私が全校集会で話した事はどうか忘れないでほしいです。せめて、最後の全校集会で言った「努力を惜しんではならない」事は忘れないでください。

私が第十九代生徒会会長として、この木更津総合高等学校に最後の言葉を残したいと思えます。「This diploma we hold in our hands today is the ticket to the rest of our life. (今日我々が持っているこの卒業証書は我々の残りの人生を送る為の免許証だ。)」

今日我々は卒業証書を手にし、この木更津総合高等学校を巣立っていきます。この学び舎で学んだことを活かし、それぞれの進路に向かって一步ずつ踏み出していきたいと思います。

最後に、真板 竜太郎校長先生をはじめとする教職員の皆様、及び本校の関係者様に今までの感謝を申し上げるとともに、この木更津総合高等学校並びに学校法人君津学園又、本日御臨席下さいました来賓の皆様、全員の益々の御活躍・御発展を心より祈念致しまして、答辞とさせていただきます。

2024年3月1日 木更津総合高等学校 第二十一期卒業生代表 鈴木 明輝